

大腸癌研究会プロジェクト研究

「MRI 診断能に関する研究」委員会 第 10 回議事録

研究代表者 川合一茂(東京大学腫瘍外科)

日時 第 96 回大腸癌研究会・2022 年 1 月 20 日(木)9:30~10:00

場所 浜松町コンベンションホール 6F 大会議室 B ※ハイブリッド方式

出席者： 愛須佑樹、浅古謙太郎、石原聡一郎、板谷喜朗、岩佐陽介、上野剛平、上原圭、岡村亮輔、岡本耕一、小川真平、小倉淳司、小野智之、風間伸介、加藤博樹、吉敷智和、清松知充、幸田圭史、小林龍太郎、小森康司、小山文一、坂本一博、山東雅紀、塩見明生、品川貴秀、島田竜、下池典広、杉本起一、須藤剛、須並英二、諏訪雄亮、高島順平、高橋慶一、富田尚裕、西川武司、橋口陽二郎、濱田円、肥田侯矢、福田純也、星野伸晃、松田圭二、三浦卓也、村田悠記、室野浩司、森川充洋、山内慎一、渡邊純

【50 音順】

【敬称略】

議題 1. 前回議事録確認

前回委員会の議事録を確認した。

議題 2. Step1 予後調査進行状況について

症例登録後 3 年経過している症例の予後調査票の提出状況を報告した。

議題 3. Step1 予後調査 1 次解析結果報告

事務局尾崎より、Step1 予後調査 1 次解析結果を報告した。3 年 RFS 68.0%、OS 90.4%、局所再発率 7.2%、側方再発率 3.2%。次回研究会までに予後調査を完了し、登録症例の多い施設に論文化をお願いする予定であること、側方再発症例の再発時の画像を収集し術前の画像と比較する予定であることを報告した。

質疑内容・意見

・名古屋大学上原先生より再発時の画像所見と術前・術後の継時的な画像評価が重要である
とのご意見があった。

- ・京都大学肥田先生より cN3 の詳細につき質問あり、#253 転移が疑われた症例はなく、側方転移疑い症例のみであることを報告した。
- ・弘前大学三浦先生より cN3 の診断基準につき質問された。一定の基準での判断ではなく施設毎の基準であることを報告した。
- ・静岡県立がんセンター塩見先生より 予後情報の論文化につき質問された。予後の論文化については登録症例の多い施設に依頼予定であること、予後・画像を含めたすべての情報がクラウド上でアクセス可能な状態になっていること、新たな附随研究の希望施設を募っていることを事務局より説明した。

議題 4. 附随研究 AI を用いた MRI 画像による側方転移診断の研究・東京大学

事務局尾崎より、AI による側方リンパ節診断の解析結果を報告した。前治療のある症例につき治療前の画像を用いたモデルと治療後の画像を用いたモデルを作成し比較を行ったところ、治療後のモデルで c-index 0.963 と非常に良好な診断能が得られた。次回研究会までに論文化の予定であることを報告した。

質疑内容・意見

- ・京都大学肥田先生より、主論文では前治療症例について治療前画像の方が治療後画像より診断能が高かったとの解析結果であったが、AI では逆であったということかとの質問あり。事務局よりその通りであると説明を行った。

議題 5. 附随研究 CT と MRI のリンパ節存在診断能の比較・名古屋大学

名古屋大学小林先生より、進捗状況を報告した。最大短径のみを判断基準とした場合、1mm スライス CT は 3mm スライス MRI とほぼ同等の診断能を有するとの結果が提示された。この結果から術前 MRI を撮像できないような施設では 1mm スライス CT での側方リンパ節の評価が重要であるとされた。

議題 6. Step2 症例登録状況

事務局尾崎より、Step2 症例登録状況を報告した。目標症例数 122 例に対し現在登録 53 例であり、さらなる症例の登録をお願いした。

文責 川合一茂